

風の道

名古屋市大東部医療センター広報誌

2026 Autumn

vol. 44

TOPICS

9月21日は
世界アルツハイマーデー！

- 診療科のご紹介
- 部門のご紹介
- 東部トピックス
- ヘルシーレシピ



バックナンバーは
こちら



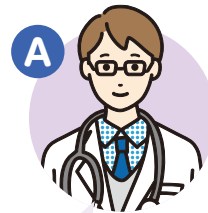
※ 写真上段、写真下段左側：NST&OCT合同お楽しみ食事会「あじさいバイキング」
※ 写真下段右側：摂食嚥下患者・家族会 ツバメの会

教えて! アルツハイマー病のこと



Q

先生、アルツハイマー病ってどんな病気ですか？



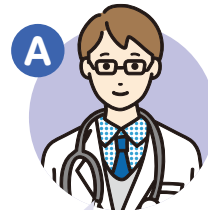
A

脳の神経細胞が変性したり脱落したりすることで起こる病気で、もの忘れなどの症状がゆっくりと進行し、やがて日常生活に支障をきたします。「脳が健常な状態」と「認知症」の間には『MCI（軽度認知障害）』と呼ばれる段階があり、このMCIのうちに発見して早期に対策を行うことで、状態が改善したり、認知症の発症を遅らせたりできる可能性があります。



Q

どのような症状が出たら「もの忘れ認知症外来」を受診したほうが良いですか？



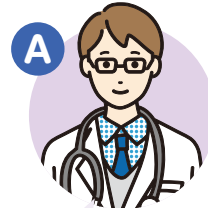
A

日常生活の中で「何度も同じことを尋ねる」「物の名前が出にくくなった」「約束を忘れてしまうことが増えた」「新しい家電の使い方を覚えるのに時間がかかる」などの症状があれば、それはMCIのサインかもしれません。ご自身やご家族にこのような変化に気づいたら、早めにお医者さんへ相談することをおすすめします。



Q

アルツハイマー病は治すことはできますか？



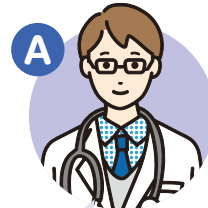
A

完全に治すことは難しいですが、認知機能の維持と生活の質の向上を目指した治療が可能です。治療は薬物治療と非薬物治療を組み合わせで行います。お薬には、症状を緩和するものだけでなく、最近ではアルツハイマー病の原因と考えられる「アミロイドβ」を除去し、病気の進行を遅らせる新しい薬も登場しています



Q

アルツハイマー病の予防法はありますか？



A

WHO（世界保健機関）は、認知機能低下を予防できる12の対策を推奨しています。具体的には、禁煙、健康的な食事、定期的な身体活動や、体重、高血圧、糖尿病、脂質異常症の管理などです。また、ご家族や友人とのコミュニケーション（社会活動）や、ゲームなどの認知トレーニングを取り入れることも、頭と心を活性化させる大切な刺激になります。

教えてくれた先生

7月から新しく火曜日を担当している先生です！



脳神経内科 山田 健太郎 先生
座右の銘：救える脳をあきらめない
趣 味：読書、自転車



脳神経内科 柴田 治人 先生
座右の銘：日進月歩
趣 味：読書・映画鑑賞



知ろう! アルツハイマー病の治療と外来

「ものわすれ認知症外来」って?

当院のものわすれ認知症外来を受診する際には、今現在おかかりになっている診療所からの紹介状が必要です。受診をご希望の際は、現在おかかりの診療所を通じてお申し込みください。名古屋市の方は、精密検査費用の自己負担額の助成がある名古屋市「もの忘れ検診」を受けて紹介受診されることをお勧めします。

診療体制の拡充

診療時間

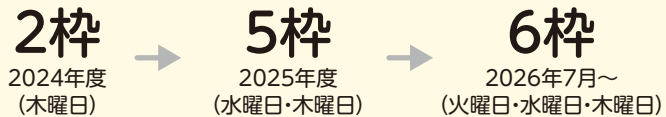
脳神経内科専門外来

初診枠は毎週

火曜日 1枠 水曜日 3枠 木曜日 2枠

(カルナコネット経由
および病診連携室経由)

週の初診枠



ものわすれ認知症外来の実績



アルツハイマー病の治療法を詳しく教えて!

アルツハイマー病の治療は、薬物治療と、食事や運動などの非薬物治療を組み合わせで行います。薬物治療には、症状を和らげる薬に加えて、原因となるアミロイドβ蛋白を除去し、病気の早い段階から進行を遅らせる「新規疾患修飾薬」があります。当院の脳神経内科では、この新しい薬の治療にも対応しており、他の医療機関と連携してアミロイドPET検査を実施するなど、先進的な取り組みを行っています。ただし、対象になる患者さんには一定の基準があります。



	レカネマブ (レケンビ)	ドナネマブ (ケサンラ)
基本コンセプト	続けられる治療 (継続評価型)	終われる治療 (目標達成型)
投与間隔	2週間に1回	4週間に1回
1回の投与時間	約1時間	少なくとも30分
治療期間の目安	18ヶ月で再評価 (継続可)	原則最長18ヶ月 (除去で完了)

その他こんな外来も!!

● 脳卒中再発予防外来

若年性脳梗塞や、原因不明の脳梗塞に対して、徹底した原因検索と最適な治療で、再発を全力で防ぎます。

● パーキンソン外来

パーキンソン病に対して、飲み薬から最新のデバイス補助治療まで、病期に合わせた最適な治療をご提案します。評価・調整の入院もできます。

● 片頭痛外来

片頭痛の患者さんに対して、頭痛専門医とともに、最新の抗体治療（注射薬）や内服薬を駆使し、「片頭痛からの卒業」を強力にサポートしていきます。

名古屋市もの忘れ検診▶



なごや認知症あんしんナビ▶



乳 腺 外 科



当科では、「患者さん中心の診療」を理念として、正確な診断、患者さんに合わせた治療、地域と連携した継続診療、新しい医療への橋渡しの4つを柱に診療を行っています。乳房のしこりや痛み、乳がん検診で異常を指摘された方はもちろん、乳腺の良性疾患についても対応しております。

乳がん治療は近年大きく進歩しており、手術だけでなく、薬物療法や放射線治療を組み合わせた総合的な治療が行われています。また、患者さん一人ひとりで病状や生活環境、ご希望は異なるため、当科では標準治療を基本としながら、それぞれの患者さんに最適な治療と一緒に考えることを大切にしています。

また、乳がんの治療は長期にわたることも少なくありません。当科では地域の医療機関と連携しながら、患者さんが安心して治療を受け続けられる体制づくりを進めています。さらに、新しい治療法や臨床試験にも積極的に取り組み、この地域で安心して先進的な医療に触れることができる環境を整えてまいります。

地域の皆さまに信頼される乳腺外科を目指し、スタッフ一同努力してまいります。

乳腺に関することでお困りの際は、お気軽にご相談ください。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



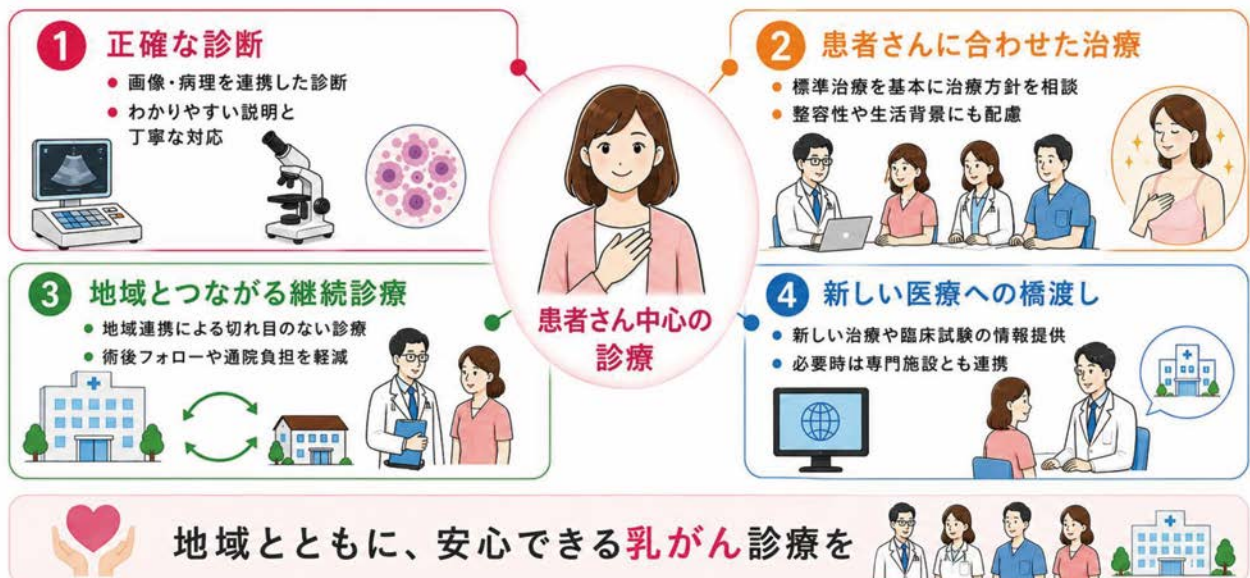
マンモグラフィ装置



乳腺外科スタッフ一同

東部医療センターの乳がん診療

患者さんに寄り添い、地域で支える医療



セカンドオピニオン外来のご紹介



当院以外の医療機関で診療中の患者さんが、これからの治療方法を自ら選択・決定することの支えとなることを目的として、セカンドオピニオン外来を設置しています。

詳しくはこちらからご確認ください。



腎臓内科



腎臓を守り、支える——人（腎）生に寄り添う医療

当科は、検尿異常をはじめ急性腎障害、慢性腎臓病（CKD）、水電解質異常や透析関連合併症など、腎臓を取り巻くあらゆる疾患をエビデンス（根拠）に基づいて診療しています。

●CKDの早期発見とトータルケア

約2000万人、5人に1人が罹患しているとされる慢性腎臓病（CKD）の多くは自覚症状のないまま進行します。これまで治療法は限られていましたが、近年集学的治療によりその進行を大きく緩めることができるようになってきました。当科では、かかりつけ医の先生方との連携により、尿所見異常や腎機能低下を早期に発見し、専門的な診療へとつなげています。また医師・看護師・薬剤師・管理栄養士による多職種チーム医療を展開し、生活指導や栄養管理まで含めた包括的なサポートを行っています。

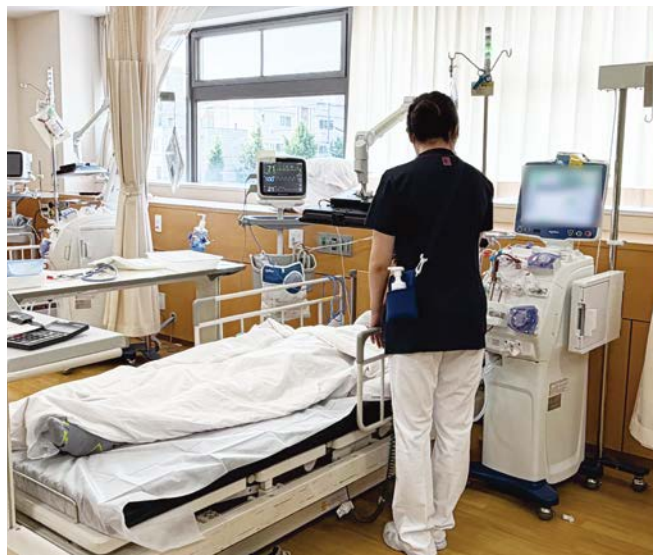
●一人ひとりに合わせた腎代替療法選択

将来的に透析が必要となる患者さんには、「腎代替療法選択外来」で血液透析・腹膜透析・腎移植について丁寧に説明し、ライフスタイルに合わせた最適な治療法を共に考え選択します。血液透析導入をはじめ、通院負担が少なく生活の質を保ちやすい腹膜透析の導入・継続にも対応します。また、体液管理が難しい場合には腹膜・血液透析を組み合わせる「ハイブリッド透析」も行います。

●血液浄化療法センターでの治療

血液浄化療法センターは、個室を含む8床を備え、専属の看護師・臨床工学技士のもと、入院血液透析をはじめ、病態に応じて血液濾過透析、血漿交換、血液吸着や腹水濾過濃縮再静注法などの各種血液浄化療法を行っています。

人生100年時代、患者さんの「腎生」も100年を目指して腎臓を守り、支える医療に取り組んでいます。



血液浄化センターの様子



腎臓内科・血液浄化センタースタッフ

がん相談支援センターのご紹介



令和6年4月に開設。患者さんやご家族のほか、地域の方々などなたでも無料でご利用可能です。

相談に関する各種情報は、こちらからご確認ください。



栄養管理科



食べる力を支える、栄養管理科

私たち管理栄養士は、患者さん一人ひとりの病状や治療内容に合わせて、安全でおいしい食事の提供と、適切な栄養管理に努めています。

急性期医療では、病気や手術、治療の影響により、食欲が落ちたり、十分な栄養がとれなくなったりすることがあります。栄養状態が低下すると、体力の回復が遅れたり、治療の継続に影響することがあるため、管理栄養士は、入院早期から栄養状態を確認し、多職種と連携しながら、チーム医療の一員として栄養状態の改善に取り組んでいます。

また、医師の指示に基づき、患者さんやご家族への栄養食事指導を行っています。糖尿病、心臓病、腎臓病、がん、飲み込みにくさがある方など、入院・外来を問わず、さまざまな疾患や状態に対応しています。必要に応じて体成分分析装置も活用し、体重だけでは分かりにくい筋肉量や体水分量などを確認しながら、食事内容や栄養のとり方について一緒に考えています。

病院食では、治療に必要な栄養バランスや安全性に配慮するとともに、「食べる楽しみ」も大切にしています。選択メニューや行事食、週1回の特別メニューなどを通じて、入院中の食事が少しでも楽しみとなるよう工夫しています。

これからも患者さんやご家族に寄り添い、安心して治療を受けていただけるよう、栄養面からサポートしてまいります。



栄養指導



厨房内の様子



栄養サポートチーム



行事食「ひなまつり」



特別メニュー「天ぷら」

5/21
木曜日

摂食嚥下患者・家族会 ツバメの会

ツバメの会は、当院の摂食嚥下リハビリテーション外来に通われている方を対象に、患者さんやご家族さん同士が交流し、困っていることなどを情報交換する会になります。

これまで水分のトロミや誤嚥性肺炎、嚥下訓練について講演を行いました。

今回は、「錠剤嚥下障害」をテーマに講演と交流会を実施しました。

食物や水分だけでなく、内服薬でも嚥下障害は起こりうることを知っていただき、安全に服薬するポイントについて講演を行いました。

参加者同士で服薬に関する悩みや工夫について意見交換が行われ、日常生活での薬の「飲み込みにくさ」について共有し合う貴重な機会となりました。

最後に、「飲み込み」にお困りの方がいましたら摂食嚥下センターまでご相談ください。



5/27
水曜日

第177回 市民健康講座

第177回市民健康講座「がん診断されたら…まず知ってほしい緩和ケア」(講師:当院緩和ケア認定看護師 太田 琴美)を開催しました。

「緩和ケア=最期の医療」と思われがちですが、緩和ケアは、がん診断されたときから受けられて、痛みなどの身体の不さ、心の不さ、生活も支える、という内容でした。この講演を聞いて緩和ケアの認識が変わった、実際にがんになった時に心強く思えたなど、多くの感想が寄せられ、関心の高さが伺われました。家族の看護に役立てたり、ご自身が受ける医療について考えるよい機会になったと好評を得ました。

今後の開催(年度内は11月、翌2月)については当院ホームページ、広報などでごお知らせしますのでご確認のうえ、ぜひご参加ください。



5/28
木曜日

市民公開講座 「高齢者のワクチン～人生100年時代の感染症予防～」

5月28日(木)、さくら講堂(桜山キャンパス)において、市民公開講座「高齢者のワクチン～人生100年時代の感染症予防～」を開催しました。

年齢を重ねると免疫の力は少しずつ低下し、感染症は重症化しやすくなります。第1部は和知野春助教(薬剤師)が、名古屋市と連携して取り組んでいる新型コロナ後遺症の研究を紹介し、ワクチンの意義は感染そのものの予防にとどまらない可能性があるとして、薬剤師の立場から予防接種の大切さをお話しました。第2部は伊東直哉主任教授(感染症内科)が、肺炎球菌、帯状疱疹、新型コロナ、RSウイルス、インフルエンザの5つについて、「何歳から、どのワクチンを、いつ受ける」といかに具体的に解説しました。

薬剤師と医師が連携してお届けする講座となり、受講者の皆さんからも活発な質問をいただきました。次回は9月29日(火)、東部医療センター(多目的ホール)で開催します。参加費無料・事前申込不要です。どなたでもお気軽にご参加ください。



第1部 和知野助教



第2部 伊東教授

6/4
木曜日

NST&OCT合同お楽しみ食事会 「あじさいバイキング」

当院では2017年より、認知症ケアチームと栄養サポートチームが協働してお楽しみ食事会のバイキングを開催しています。NSTは栄養サポートチーム、OCTはオレンジケアチームを指す略称で、多職種で構成された医療サポートチームです。オレンジケアチームは当院オリジナルの名称です。認知症支援のシンボルカラーであるオレンジを掲げ、温かい手助けを共通理念として日々活動をしています。

お楽しみ食事会のバイキングは、楽しい食事時間の提供で療養生活を豊かにし、食欲の増進と生活リズムの調整、交流機会の提供を目的としています。お食事の前には季節に関するクイズや嚥下体操を行い、頭と体の両方を動かして楽しいお食事に向けての準備をします。この日のメインディッシュは大人気メニューのエビフライ。その場で揚げたてを提供し、参加された皆様大変喜んでいただきました。自分で選べる楽しさもバイキングならではです。病室から出た少し違う環境だからこそ見える患者さんの表情や姿もあり、スタッフも良い驚きと喜びを感じさせて頂いています。今後もチームで協働し、より良い療養をサポートさせていただきます。



6/16
火曜日

救急外来防犯訓練

6月16日(火)、7月14日(火)に千種警察署のご協力のもと、救急外来防犯訓練を行いました。

毎年、当院では近年の社会情勢を鑑み、救急外来の診察室において、医師や看護師に対する暴言・暴力行為が発生することを想定し、職員自身と患者さんを守るための対応訓練を行っています。

今回の訓練では、110番通報の手順、対象者に対峙した際の注意点などを学びました。周囲の人が異常や危険を認知したら、任務分担をして速やかに通報すること、対象者とは距離をとり正面に立たないことが非常に重要であることを認識しました。

万が一の場面に慌てることなく患者さんと職員の安全を守るよう、一人ひとりの防犯意識を高め、安心・安全な病院運営に努めてまいります。



7/13
月曜日

消防訓練

7月13日(月)に今年度1回目の消防訓練を行いました。消防訓練の実施は、消防法第8条および消防法施行規則により定められており、特定用途防火対象物にあたります当院は、年2回以上行うこととされています。

今回の訓練では、各部署の職員及び火元責任者医師を対象とし、スライドによる講義をはじめ、防火設備等の使用方法の実演、放水体験などを行いました。放水体験では、千種消防署よりお借りした、水消火器を使って、火に見立てた的に向かって放水し、消火器の使用方を学びました。

実際に火災が起こらないに越したことはありませんが、火災が起こった時など非常事態には職員同士が声をかけ合い、連携をとって迅速に対応できるよう、これからも訓練を行っていきたいと思います。



7/23
木曜日

MERS疑い患者の受け入れに備え、合同実地訓練を実施

7月23日、アジア・アジアパラ競技大会の開催に備え、中東呼吸器症候群(MERS)疑い患者の発生を想定した実地訓練を実施しました。MERSは、大会期間中の強化サーベイランス対象疾患の一つであり、多くの選手・関係者・観客が国内外から集まるマスコガザリングでは、海外から持ち込まれる可能性を考慮する必要があります。訓練では、大会関係者が発熱と肺炎を呈し、ヒトコブラクダとの接触歴からMERSが疑われたという想定のもと、当院、中部ろうさい病院、港保健センター、名古屋市感染症対策課、名古屋市衛生研究所が連携し、患者さんの把握、情報共有、検体採取、移送、感染症病棟への受け入れまでの一連の対応を確認しました。

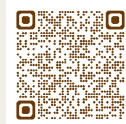
実際に訓練を行うことで、患者さんの重症度に応じた受入体制、搬送動線、車椅子型アイソレーターの運用方法、多言語対応などの課題も明らかになりました。今回の経験を今後の体制整備に生かし、安全・安心な大会運営につなげていきます。





栄養管理料理

ヘルシーレシピ



暑さが続く季節の疲労対策におすすめ!
豚ヒレ肉のビタミンB1に香味野菜の風味と
ほど良い辛みで、元気をチャージ。



作り方

- ①豚ヒレ肉は1cmの厚さに切る
- ②Aの材料を①に加えて混ぜ、30分程冷蔵庫でなじませる
- ③フライパンにごま油を入れて熱し、②の肉を並べ、両面焼く
- ④皿に盛り付け、付け合せを添える

豚ヒレ肉は低脂肪で高たんぱく。疲労回復に必要なビタミンB1や、栄養素をエネルギーに変換するナイアシンを多く含みます。

さらに、ネギやニンニクに含まれるアリシンはビタミンB1の効果を高めるので、ベストな組み合わせ。食欲そそるピリ辛料理で、残暑を乗り切りましょう。



豚ヒレ肉の香味焼き

1食あたりの
栄養価 (1人分) **157kcal**

たんぱく質……23.8g 塩分……………1.2g
脂質……………5.0g

材 料 (3人分)

豚ヒレ肉 …………… 300g
にんにく みじん切り …… 小さじ1/2
生姜 みじん切り …… 小さじ1/2
ネギ みじん切り …… 大さじ1
しょうゆ …………… 小さじ2
酒 …………… 大さじ1
ごま …………… 小さじ1/2
豆板醤 …………… 小さじ1/2
塩・こしょう …………… 少々
七味唐辛子 …………… 少々
ごま油 …………… 大さじ1

【付け合わせ】

キャベツ 千切り
ミニトマト

あじさい基金について

当院では、広く寄附のご協力を仰ぎ、診療研究、人材育成及び医療環境の充実を図ることを目的として「あじさい基金」を設置しております。また、その成果を通じて地域の中核病院としての役割を果たして参りたいと考えております。皆様方のお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

詳しくは
こちらから



名古屋市立大学
医学部 附属

東部医療センター

発行者／名古屋市立大学医学部附属東部医療センター広報委員会
〒464-8547 愛知県名古屋市千種区若水一丁目2番23号
TEL 052-721-7171 (代表)

東部医療センター

検索

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/toubu/>

